

CYCLE MODE OSAKA 2024

3月2-3日(土-日)に大阪 万博記念公園で開催された CYCLE MODE RIDE OSAKA 2024。初日は時より粉雪も舞う寒さでしたが、日曜は晴天で終了間際まで試乗されるお客様も多く賑わいました。弊社ブースは木の看板にテント仕立てと緩やかな個性を出しつつ、フル動員した昨年発売のワンバイエスニューモデル試乗車 10 台も絶え間なく稼働し、特に目的意識があってモデルを乗り比べて入念に確認したり、取り付けられたハンドルなどの製品の感触を確かめる皆さんも多く、昨年より増やしたカタログの無料配布も 2 日目の昼過ぎには無くなりました。間に合わなかった皆様にはお詫び申し上げます。またブースの半分は女性向けアパレルロゴワや TERRY が彩を放ち立ち寄り女性来場者も昨年も増して多く、更にサンエスペース羽根倉通りの KURU と UX もイメージを再現してアピールしました。



▲少し異彩を放つテントの角面には 10 台の試乗車が勢揃い。全数一気に稼働することもありました。稼働順にチタン TiV2 (2 台)、アルミ CX#807z(3 台)、アルミツアールラベル #901(3 台)、クロモリ #703D (2 台)、どれも独自個性を体感いただけたと思います。



▲鮮やかな女性向けアパレルやサンエスペース KURU/UX の雰囲気写真を写真で演出するとともに最新カタログを配布。職人さん手作りの木製ロゴ看板がハード優先の自転車ショーに少し一矢を報いたかな?と思います。

TAIPEI CYCLE 2024

3月6-9日に台湾北部の台北で開催された世界有数の展示会。台北ショーは多くのメーカーとのミーティングがメインとなるわけですが、今年は特に欧米からの来場者(バイヤー)が極端に減り、世界的物余りの後遺症は続いています。そんな中、弊社の参加も 30 年を超えますが、今年は日本パビリオン内に小さなブースを設けました。弊社製品はこれまで海外での販売実績があり、日本を意識した設計の製品群が海外に於いても、より多く受け入れられるようにと願っています。

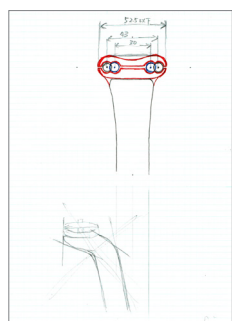
▶日本館の小さなブースにはチタン自転車 1 台とほんの少しの厳選した個性ある独自製品のみをシンプルに展示。



▲2021 年の Vol.36 でも掲載した「リリーフバー」が最も注目を集め、Vol.52 掲載の「ボダレスカーボンハンドルバー2」が次に興味を引いていたそうです。個性の厳選が当たったということでしょうか。

～製品化に至らなかったシリーズ～ (不定期連載コラム)

[第 6 回] 諦めきれないスペック



▲初期案

2016 年からスタートした「独自のナロウサーティーシリーズの 30mm レールサドル (Vol.8 掲載) と通常の 43mm レールサドルのどちらも使用できるスマートなアルミシートポストを作る」プロジェクト。2019 年の総合カタログ Vol.27 でも発表予定として掲載していた製品です。

▶通常サドルレールよりレールの幅を 13mm 狭くした芯-芯 30mm 幅のレール。太腿の内側が擦れる部分のサドル自体の幅を狭くできるためスムーズな回転に貢献します。圧倒的回転数で勝負する競輪(トラック)界では以前からシートポストとサドルが専用設計で存在していることから実証されています。更にサドルの幅からクランクの幅<Qファクター「クランク (Vol.9 掲載) 参照」>についても、トラック競技では狭さが重要になります。

また最近重要視されている空気抵抗も若干小さくなると言われています。ライダーの体格や乗り方にもよりますが、しっかりとサドルトップに座れてスムーズな回転を得ることは一般のライダー(主にオンロード)にも有効と考え作ったのが 30mm レールのサドルと 30mm クランクも使用できるシートポストです。数多くの商品をラインナップしています。

▶しかし、もっと気軽に 30mm を体感いただきたいと考えたのが、本題のシートポスト。43mm と 30mm の両方を使用可能な、名付けて「DUAL SPEC デュアルスペック」シートポストです。ただ機能面だけではなく、アルミ製でスマートさと軽量でオフセットがあり 1 本ボルトでの利便性も追求しました。ところが・・・最後の保持力で大きな壁に打ち当たり、断念。けれども、未だ諦めきれないデュアルスペックなのです。

ライド時のサドル擦れに気がついたら興味が出るものですから・・・。



◀数多くのモックアップと実用可能なアルミで作った重要なヘッド部分



▲(左) 43mm と (右) 30mm のポジション



◀横からのシルエット